

シリーズ

街並み景観整備について（後半）

—景観整備の考え方と実施例—

技術士（森林部門） 由田 幸雄



はじめに

前回（171号）は、街並み景観整備の内容が以下のア～ウの3つになることを説明し、そのうちアの街並みの見通しの確保について詳しく説明しました。

ア 歩道から街並みが見えるようにする

イ 視点まわりの空間（歩車道）を整備する

ウ 街並み（建物）を整備する

今回は、残りの視点まわりの空間の整備や街並みの整備、良好な街並み景観について説明します。なお、見出しの番号は前半からの通算です。

5. 視点まわりの空間の整備

街では視点は歩道にあるので、視点まわりの空間は歩道と車道になります。よって、この2つが整備の対象となります。

この整備の必要性については、次のとおりです。人は自分のまわりが整備されていると、大切にされていると思うので嬉しくなります。そういう状態で眺めると眺めの評価が引き上げられるからです。したがって整備のポイントは人を大切にしていることが分かるようにすることです。そのためには、人を狭い歩道空間に閉じ込めないで広い空間を享受できるようにすることです。つまり街路空間を人が中心の空間にすることです。

写真1は東京の銀座通りの歩行者天国の様子を撮ったものです。大勢の人が広い車道を歩いています。ここは車だけでなく、自転

車の通行も禁止されているので、道のすべてが歩行者のために開放されています。人が中心の空間になっているので嬉しくなって広い車道を歩くのです。十分なスペースがあるので、まわりの人に気を遣うことなくゆっくり歩くことができます。これは大変気持ちの良いものです。



写真1 銀座通りの歩行者天国

ここは、道が広いだけではありません。車道はヒートアイランド対策のためアスファルト舗装ではなく遮熱性舗装となっているので路面の色は灰色です。

写真2は車道と歩道の路面を撮ったものです。車道（左側）も歩道（右側）と同じような色になっています。車道が車道らしくないので車道を歩いているような気がしません。これがよいのです。

このように、歩道と車道の一体感が生じると人が中心の空間になります。そうするため

には、①車道から車道らしさを取り除く ②歩車道の境を弱くすることです。また、それに加えて、景観の価値に基づいて視点まわりの状況が分かるようにすることです。



写真2 車道が車道らしくない

これらの整備の具体的な内容について、写真で説明します。

ア 視点まわりの状況が分かるようにする

これは、自分のまわりが見通せて、その状況が分かると安全に行動することができるのでよいというものです。

写真3は日本庭園の眺める場所とそのまわりを撮ったものです。



写真3 視点まわりの整備状況

視点（ベンチ）のまわりの地面はよく見えており、その前方も草が低く刈り払われてい

るので緩斜面なことが分かります。また、視点前方に柵などの物が立ち上がっていないので見通しもよいです。街でも視点まわり（歩車道）の状況が分かるよう、歩道に物を置かないことです。具体例で説明します。

写真4は歩道に植栽があるので、歩車道の境が見えません。また、植栽はヤブのようになっていますが、人は自分のまわりがヤブの状態を好みません。



写真4 歩車道の境が分からない（有楽町）

写真5は歩道の左側に植栽が垣根のように設置されているので車道が見えません。また、掲示板などを設置すると自転車などが置かれやすくなります。基本的に歩道には物を設置しない方がよいのです。



写真5 歩道のまわりが見えない（銀座）

写真4と5では、視点まわりの状況が分からないだけでなく、植栽によって歩道空間と

車道空間とに分かれてしまうので歩車道の一体感が生じません。

イ 車道から車道らしさを取り除く

車道は車が通行できる道です。走行しやすいようにアスファルト舗装されています。人は、車道を見ると、「走行の邪魔になるので、この中に入るな」と言われているような気がします。そのため人は車道から疎外感を感じるのです。**写真6**は車道がアスファルト舗装の通りを撮ったものです。車道は広く、車道らしいのでこの通りは車中心の空間になっています。しかし、人通りの多い商店街などでは車道から車道らしさを取り除いて、人が中心の空間にする必要があります。



写真6 車道はアスファルト舗装（銀座三原通り）

写真7は、歩道（左側）ではなく、車道（右側）を歩いている人を撮ったものです。なぜ車道を歩くのかというと、車道が歩道以上に立派に舗装されているので歩道のように見えるからです。車道だが、人も歩けると思うのです。

このように車道から車道らしさを取り除くと歩車道の一体感が生じ、人が中心の空間になります。そのためには、車道をアスファルト舗装にしないことです。

写真8は浅草の六区通りを撮ったものです。ここは車道が歩道と同じ石畳となってお



写真7 車道を歩く人（神田）

り、大変立派です。車道は中央に少し濃く見えていますが、歩車道の境を弱くしているため、道のすべてが歩道のように見えます。写真では女性二人が車道の中央を歩いており人が中心の空間になっているのが分かります。



写真8 車道を石畳にした（浅草六区通り）

車道から車道らしさを取り除くと歩車道の一体感が生じますが、歩道に物を立ち上げると歩道と車道とに分かれてしまいます（**写真9**を参照）。

写真9の車道はオレンジ色なので車道らしさが取り除かれています。しかし、歩道に植栽などが置かれているので歩道と車道とに分かれてしまい歩車道の一体感が生じません。歩道には物を設置しない方がよいのです。

以上の事例から、車道から車道らしさが取り除かれ、歩道に物が立ち上がっていないと、歩車道の一体感が生じて人が中心の空間にな

ることが分かります。



写真9 歩道と車道の分離(浅草オレンジ通り)

ウ 歩車道の境を弱くする

車道から車道らしさを取り除くとともに歩車道の境(車道外側線)を弱くすると、さらに人が中心の空間になります。このことを写真で説明します。

写真10は銀座ガス灯通りを撮ったものです。ここは車道と歩道が同じく立派に舗装されていますが、この通りを見ると、街並みよりも先に歩車道の境の白線が強く目に入ってきます。この白線を見ると、「車の通行の邪魔にならないように人は道の端を歩け」といわれているようでよい気はしません。この通りは街路樹がないので街並みの見通しがよく、歩車道も立派に整備されていますが、白線が強いため疎外感を感じるのです。安全上の問題がなければ白線を弱めると人を大切に



写真10 歩車道の境が強い(銀座ガス灯通り)

する表現になります。

写真11は、同じ銀座のあづま通りを撮ったものです。こちらは歩道と車道の色を少し変えているだけで白線はありません。この方が気持ちよく歩けます。



写真11 歩車道の境が弱い(銀座あづま通り)

エ 横断防止柵は必要なところに設置する

街では、写真12のような横断防止柵をよく見かけますが、歩くと柵の中に押し込められているようで、あまりよい気はしません。また、横断防止柵は、人が車道に出てくると運転の邪魔になるので、それを防ぐために設けられています。つまり車のための施設です。横断防止柵は必要なところだけに設置することです。



写真12 横断防止柵の設置状況(銀座)

オ 歩道を広くする

歩道は広い方がよいです。歩道が狭いと人

や車に気を遣いながら歩かなければなりません。歩道を広くするのは難しいのですが歩行者天国のように車の通行を規制することによって限定的ですが歩道を広げることができます。

写真13は、12m幅の広い道を撮ったものです。12mのうち中央の灰色の部分幅6mの車道で、その両側にある歩道の幅は3mです。しかし、10時から22時の間は車の通行が規制されているので、その間はすべてが歩行者専用になっています。また、歩車道の境は写真14のとおり弱められています。



写真13 広い道（浅草六区ブロードウェイ）



写真14 歩車道の境を弱くしている（浅草）

以上、説明してきた、人を大切にする表現は、店舗や商店が多く、人通りの多い通りでは必要です。

6. 街並みの整備

街並みの特徴は、沿道の建物が連続していて連続感のあることです。このため整備の基本的な考え方は、建物の壁面や高さをそろえて建物の連続性が途切れないようにすることです。写真15は銀座通りの街並みを撮ったものです。



写真15 銀座通りの街並み（銀座5丁目）

建物が連続し、その壁面がそろっています。銀座では通りに面した建物はすべてこのようになっています。

また、街並みは建物前面のデザインや色彩などからにじみ出る独特の雰囲気があります。このため地方自治体の景観計画では、色彩などをまわりの建物と調和させることなどによって連続性のある街並み景観を形成することにしています。ただ、整備は建物の改築や改修時に行われるので街並みの整備には長期間を要します。なお、地方自治体の景観計画では、建物が中心で、街並みの見通しについては触れられていないのは残念なことです。街並みを立派に整備しても、それが見えなければ整備した意味がないので、まず見たいもの（建物）が見えるようにすることが大切です。

7. 良好な街並み景観について

これまでに説明してきたことから、良好な街並み景観の要件として次の3つがあげられ

ます。

ア 歩道から街並みがよく見えること（歩道に街路樹や電柱等が立ち上がっていないこと）

イ 視点のまわり（歩道と車道）が整備されていること

ウ 建物の壁面や高さがそろっていて街並みに連続性があること

次に良好な街並み景観の事例として京都市祇園について説明します。この地区は景観を重視した整備が行われています。

写真 16 は祇園の裏通りを撮ったものです。街路樹がなく、観光客がいないので街並みがよく見えています。道は石畳で大変立派です。道に立ち上がっているものがないので整然としています。また建物の高さや建物正面のデザイン、色等がそろっているため調和がとれており、統一感があります。このような街並みを良好な街並み景観というのだと思います。



写真 16 祇園の裏通りの街並み

写真 17 は祇園のメインストリートである花見小路通りを撮ったものです。ここも道はすべて石畳で、大変よく整備されています。電線は地中化され、街路樹もないので街並みがよく見えます。建物も調和がとれており統一感があります。

祇園の街並みの素晴らしさもさることなが

ら、ここで驚かされるのは観光客が車道の真ん中を堂々と歩いていることです。なぜ観光客が車道を歩くのかというと、歩道と車道の境が非常に弱くしてあるからです。（歩車道の境は同じ色の細長い石で表示されている）このため道のすべてが歩道に見えます。観光客は自分のために広く立派な石畳の歩道が整備されていると思いきや堂々と車道の真ん中を歩くのです。このような車よりも人を大切にすることは、人通りの多い商店街などでは必要です。



写真 17 祇園花見小路通りの眺め

以上の事例からも良好な街並み景観とは、次の3つを満たす眺めであることが分かります。

- ① 歩道から街並みがよく見える
 - ② 歩車道が整備され人中心の空間になっている
 - ③ 街並みに統一感と連続感がある
- このうち特に①が重要です。

まとめ

- 1 店舗や商店が建ち並び人通りの多い通りでは、車道から車道らしさを取り除くなどによって人が中心の空間にする必要がある。
- 2 街並みの整備では、建物の連続感が生じるようにする必要がある。
- 3 良好な街並み景観とは、端的に言うと街並みがよく見える眺めである。

おわりに、景観は見ることが重要です。特に写真はカラーでないとよく分かりません。森林部門技術士会のホームページのお知らせには、本稿のカラー版が公開されていますので、是非そちらをご覧ください。

参考文献

- 1 堀 繁：庄内景観講座（講演集），山形県庄内総合支庁景観形成検討会議，2005
- 2 篠原 修（編）：景観用語事典，彰国社，2021
- 3 由田幸雄：森林景観づくり，日本林業調査会，2017